
6 1 3 又はM . D

村雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

613又はM・D

【Nコード】

N1817H

【作者名】

村雲

【あらすじ】

意味なんてないこと、教えてあげるよ。

僕は人を殺した

ただ、人ではあったけど

人間ではなかった

そして人間ではなかったけど

僕の兄さんだった

父さんは泣いてた

なんでかは知ってたよ

けど知らないフリも出来た

だからちよつとだけ笑えた

父さんは僕の目を睨んでた

「お前に心はないのか」

多分そう言ったんだと思う

僕は何にも言わなかった

それに言う必要もなかったみたい

間もなく父さんは死んだよ

自分で左胸を刺したんだ

100均で買った果物ナイフでね

全く現実味はなかった

画面の中の登場人物のようだったんだ

僕は目の前のリアルを感じることは出来なかった

だからちょっとだけ笑えた

僕は独りぼっちになった

というよりやっとなりぼっちになれた

意味がわからない？

意味なんてないよ

あったところで意味なんてある意味がない

可笑しいかな

笑ってもいいよ

僕は独りぼっちになって初めて

孤独っていうリアルを感じたんだ

ね？

ちょっとだけ笑えるだろう？

一日だけ父さんを放っておいた

部屋の冷房をビンビンにしてさ

そのおかげで父さんは綺麗だった

左胸に刺さったままのナイフは冷たくなっていた

もちろん父さんだった物体もね

孤独とはまた違った感覚もあった

それが多分

悲しみと呼べるものだという事を知るはめになった

思わぬ事で人を殺したとは訳が違っただ

兄さんは言ったよ

「俺を殺せ」

ってさ

もちろん僕は断ったさ

血の繋がってる兄弟だし、

何より僕の事を一番理解しようとしてたのは

他の誰でもない、たった一人の兄さんだったんだ

それに

殺すのも面倒だったしね

だけど兄さんは首を吊ったんだ

僕の目の前でさ

僕が止めると思ってたのか

それとも僕の心を確かめたかったのか

わかんないけど

今になっては知る由もない

それに兄さんは心がどうとかいつも言ってた

僕はそんなもの信じてなんかいなかったけど

やっぱり僕が正解だったみたいだ

さっき父さんの左胸を開いてみてみたけど

心なんて呼べるものはひとつもなかったんだ

お陰で父さんの残骸を片付けるはめになっちゃったんだけど

何にしろ、馬鹿らしいと思うんだ

“僕は殺されない”

ってゆう感覚がさ

連続してるんだ

身体中を鼓動で劈かれるのと同じさ

様々な感情が

生まれる寸前に狂気に変わる

笑えるほどに

泣きたくなるんだ

けど声をあげるのはまだ早い

これを聞いてるってことは

君が僕の母さんなんだね

怖がらないで

僕はただの人間

肉を裂き

骨をしゃぶる

一休みして

また昨日の残骸を探す

ただそれだけのこと

昨日を思い返してみてもよ

ほら、残骸を手放してはいない

掴んでるともいえないけど

母さん、

僕は今からとても面白い日常を始めることにするよ

待ってて

腹を裂いて皮を剥いで

真っ先にあんたの胸に抱かれるからさあ

その時の僕を忘れないで

きつと

笑えるほどに

泣いてる

連鎖を抜け出せない生命体に

幸せなんて似合わない

可笑しいだろう？

笑えないかな？

でも心配ないよ

きつと

泣いちゃうほどに

笑えるから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1817h/>

613又はM.D

2011年1月16日01時18分発行